

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075000143		
法人名	社会福祉法人 福祉松快園		
事業所名	松快園 グループホームやすらぎの里		
所在地	福岡県遠賀郡水巻町吉田南二丁目9-1 (電話) 093-201-4822		
自己評価作成日	平成 29 年 7 月 10 日	評価結果確定日	平成 29 年 10 月 17 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の個々を尊重し、本人の希望や願いを実現できるよう支援している。また、利用者の得意とする事やできることを生活の中に取り入れ、生き生きとした生活ができるよう支援している。やすらぎの里はケアハウスの10階にあり、リビング・掘りごたつのある和室から広いガラス張りの窓を通して視野が広がり、まるで自然の懷に包まれているかのようである。また、桜並木や自然を取り入れた散歩道・数多くの植栽・野鳥などの四季の移り変わりを肌で感じながら散歩やゆったりとした時間の流れを感じて過ごせる生活の場であり、まさしく「やすらぎの里」と言える。また、福祉のあらゆる事業所を有する複合施設であり、他事業所との交流も頻回に行われており緊急事態発生時の応援体制も完備されている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 8 月 23 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑に囲まれた環境にあり四季折々に感じる事ができる環境である。敷地には、クリニック・特別養護老人ホーム・老人保健施設・ケアハウス・デイサービスなどがある複合的な施設である。事業所はケアハウスの10階にあり、入口を入ると眺望の良いガラス張りで眺めが一望にできる。法人全体で地域参加を積極的に行っており法人が主催するイベントに多くの地域住民が参加をしている。託児所も設置して「子育て宣言」に加入して職員も働きやすい環境を整えている。利用者に対して温かい気持ちで接し毎日の介護に取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に地域密着という点を熟慮し、事業所独自の理念をフロアに掲示しており、常に目に付くようにして周知を図り実践に繋げるようにしている。	地域密着を視点として事業所独自の理念がある。理念に基づいた支援・介護を行うにあたり管理者は、月1回の勉強会を開催し研修の時間工夫をして職員全員参加出来る様に行なっている。1日1日を大切に暮らせるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	母体法人が町内会に加入しており、地域の盆踊りなどの行事に参加したり、定期的に地域のボランティアによる話し相手や健康体操、絵手紙教室等を行い交流を図っている。また、法人内を一つの地域と考え交流を行っている。	自治会に加入している。毎月の組長会議に法人全体で参加し地域住民からの介護教室・行事企画など要望を法人で受け入れて積極的に地域に密着している。毎年年末には餅つきを開催し多くの方が参加している。法人内利用者との交流も積極的である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症に対する思いを伝える機会があるので、委員の方々に、研修や日々のケアで学んだことを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所からは活動状況を報告し意見交換を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、家族、地域代表、役所の方も委員に選任されている。委員からは、質問や要望、情報提供を受け、地域で安心して暮らす事が出来るまちづくりを目指し、共に考える機会となっている。出された意見は介護サービスの向上に活かしている。要望により、委員・地域住民も参加できる介護教室を開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者に参加していただき、地域の高齢者福祉の現状を伺い、事業所の活動報告や利用者の状況を報告し、参加者と意見交換を行っている。	水巻町地域包括センター主催の「認知症施策に関する事業所の意見交換会」に毎月出席し、近隣介護保険事業所及び医療関係者などの実施調査に積極的に参加している。参加した内容を事業所で伝達研修を行い、ケアサービス向上の為に職員からの意見を取り入れ事業所で実践している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束ゼロの取り組みを行っているため、今後も身体拘束を行わないため、研修などで学んだことを職種会議や勉強会で伝え、資料にし、職員全員が目を通している。	事業所内研修、外部研修、法人研修で、虐待防止や身体拘束廃止について学ぶ機会を設け、職員全員の理解に努めている。身体拘束廃止マニュアルを整備し、「身体拘束をしない介護の在り方」について常に話し合い、意識しながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないように、勉強会で知識を深め、実践では声かけなど職員間同士で気を付けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学んだことを勉強会にて伝え資料にし、入居者の状態に合わせて説明している。	権利擁護に関する制度については、資料やパンフレットを用意し、契約時に利用者や家族に説明している。職員に対しては、新人研修、内部研修、外部研修で必ず学ぶ機会を設け、自己判断が困難になった利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援出来る体制を整えている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は重要事項説明書に基づき十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、ご理解、納得をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、総会時にご家族の意見や要望等を話す機会がある。普段の面会時においても要望や意見を伺っている。また相談箱の設置や相談窓口の明示により意見を反映できる機会を設けている。	利用者の健康状態や暮らしぶりなど来訪時に面談をし報告をしている。事業所で家族会を設置され家族会でイベントの企画が立案される。事業所は立案を可能な限り実施している。玄関に意見箱を設置し、苦情受付窓口を掲示し、利用者や家族が意見や要望を出しやすい環境を整備している。出された意見は、出来るだけホーム運営に反映させる努力をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職種会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けており、日々の業務の中でも職員に反映できる機会を設けている。	毎月定期的に法人全体での合同の職員会議と、グループホーム独自のフロア会議を開催している。職員の意見や要望、アイデア等を聴き取り、出来るだけホーム運営に活かすよう取り組んでいる。管理者は、職員が意見を言いやすいような雰囲気づくりや声掛けを行う等配慮している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持てるように環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用において性別や年齢による排除は一切ない。また、法人内に託児所もあり、子育てをしながらでも能力を十分に発揮して働ける環境も整えている。	職員の募集は、年齢、性別、経験等の制限はない。採用後は、法人全体の新人研修を実施し、職員一人ひとりの能力に合わせて、役割や勤務体制を作り、生き生きと働きやすい職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表は人権教育について重要性を理解しており、勉強会等で職員への啓発活動をしている。	毎年度研修計画を作成し実施した内容を解りやすくしている。内部・外部研修の他に法人全体の研修を含み人権に関する取り組みを行なっている。職員新人研修の中で、人権教育を取り入れ、利用者の尊厳を守るための介護について学び、職員一人一人が自覚を持って、チームケアの実践に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で計画的に職員教育の体制ができており、一人ひとりの経験や能力に応じた教育が受けられる仕組みや日常的に学ぶことができる機会が確保されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入しており、地区研修会の参加を通して県内の他事業所との交流・連携を図り、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるようサービスを導入前の訪問や面接にて、情報収集を行い不安や要望を伺い、できるだけ思いを実現できるよう関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を伺い、本人や家族の思いを理解し信頼関係を構築し、安心して利用していただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期導入時に必要としている支援を本人・家族と協議した上で見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で生活全般の活動を共に行き、昔からの習わしや生活の知恵など職員が教えを請う場面もあり、時に家族のような共に支え合う関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や家族会主催のバスハイクなど、イベント参加の呼びかけ、共に支えていく関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や外泊、友人が訪ねてくることや、法人事業所内の知人に会いに行くなど馴染みの関係が途切れないように努めている。	利用者の基本情報を聴取する際、本人・家族などから馴染みの人や場所について聴取し把握している。関係性を深める為に外出や外泊を進めている。退所した利用者に面会に行くなど、法人内で交流を含めて積極的な関係づくりに力を入れている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係を把握し、レクリエーションや日々の談話を通じて孤立しないよう職員が配慮し、支え合う関係作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も同法人施設の利用をされている場合に、馴染みの利用者との交流、関係性の継続を行っている。また、必要に応じてご家族や法人施設の職員から相談等があれば、協力するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を日々の会話の中から把握し、困難な場合はご家族からお話を伺い、生活の中でご本人が選択ができるような支援、ご本人の希望を実現できるように努めている。	本人のしてみたいことや食べたいものなどを普段の会話や家族との会話から汲みとり、実施している。自分の思いを言葉で表せない方には、意思表示しやすいような、服の好みや飲み物の「熱い」「冷たい」等いくつかの選択肢を用意しておいて、選びやすいようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や日々の暮らし、ご家族からの話の中から、これまでの暮らしを把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で観察を行い、心身状態や有する能力の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では本人、家族、職員で意見を伺い、参加できない場合は面会時や電話連絡にて話を伺い、より良い生活ができるよう介護計画を作成している。モニタリングにて見直しを行い、ケアの在り方を評価している。	介護計画作成担当者が、まず居宅担当者から聞き取りを行い、他の職員や医師からの意見を集約して作成している。その際に家族からの要望を取り入れている。また、職員にも普段の朝礼やカンファレンスの際などにプランに基づいた処遇になっているかを確認しながら共有化している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子や気づきを記録し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りや外食など、ご家族と外出する機会ができたり、健康上、他科受診が必要であれば、職員が付き添いを行う等の柔軟な対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや役場、法人内の事業所との交流により豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医に受診し連携を図っている。また、本人やご家族の希望に応じて協力医療機関との連絡調整も行い適切な医療が受けられるよう支援している。	家族が以前からかかっていた物忘れ外来等を希望すれば、その主治医と連携しながら支援している。家族が送迎できない時は送迎したり、薬の変更や医師からの指示、次回の確認等も家族から聞き取り、必要がある場合は医師に問い合わせる。事業所には皮膚科と歯科の往診もあり、併設のクリニックから週一回看護師が来訪し、健康管理を行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問があり、日常の状態や気になることがあれば相談し助言をいただいたり、適切な受診が受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣の医療機関とは連携室を通じて法人開設以来、関係作りをしており入院時に治療や早期退院に向けた相談や情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に重度化や終末期の方針を説明しご家族の思いを伺っている。利用者の状況変化に応じて、本人・ご家族・かかりつけ医・職員で協議を行い、合意を得た上で支援に取り組んでいる。	事業者の方針を説明し、意思確認書をもっている。面会時に体調の変化等状況を細かく伝えて方針を決めて、担当者会議で職員間の共有を図っている。またDrにも家族への許可をとった上で指示を受けている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに職種会議や勉強会などで学ぶ機会を設け応急処置や初期対応の実践力を身に付けるよう努めている。グループホーム協議会のブロック研修にて救急救命講習に参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ケアハウスと合同で避難訓練を行っている。消防署や地元消防団との連携もあり、法人内の他事業所の避難訓練にも参加し、災害時に備えている。	避難訓練を毎月併設事業所合同で行っている。その際、年二回はグループホームが主体となって実施している。総合避難訓練では地域の方々と消防署と合同で実施し、事業所は非常時の際の避難所になっている。その為、備蓄も利用者の為だけでなく、地域の方50名分を一週間分準備している。また職員が何分以内で来れるかの規定があり、非常時には対応できるようになっている。機器点検の日、備蓄確認の日が年二回ある。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応に配慮している。接遇や個人情報の取り扱いについて勉強会を実施して意識向上に努めている。	排泄誘導や、汚れている際等には本人の耳元で話しかけ、他の人には気づかれないようにしている。部屋を間違える利用者もいるため、部屋の前にそれとなく写真を貼ったり、好みの物を置いたりするなど、わかりやすくしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のケアを通じ利用者の言葉・表情・行動から思いや意向を把握し、感情の表出が難しい利用者においても真意を推し量り、また家族からの情報等をもとに自己決定できるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の状態や気持ちに配慮しながら柔軟に対応している。レクリエーションや散歩なども集団的に行うのではなく、利用者の気持ちやペースに合わせて対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を確認しながら好みに配慮し、その人らしい身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように利用者と職員と一緒に食事の準備を行ったり、おやつ作りを行うことで、それぞれの力が活かせるよう支援している。	冷凍物は使わず、手作りにこだわっている。利用者にも準備を手伝ってもらったり、メニュー表を書いてもらい、食事前に発表してもらいなど、一緒に楽しめるようにしている。皆で一緒にいただきませすの挨拶をして、一体感もある。家族がおかずを持ち寄り、バイキングを行うこともある。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てており、利用者に合わせたバランスの良い食事が提供できている。食事や水分の摂取量は記録を残し栄養管理に活かしている。摂取量の減少が見られる場合は、状況に合わせた調理変更を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に洗面所にて口腔ケアを行っている。利用者一人ひとりに応じたセッティングや支援を行っている。義歯や口腔内に異常があれば歯科受診等につなげている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するため、記録を残しそれぞれのパターンに合わせて声かけを行い、尿意のない方には排泄感覚に応じたトイレ誘導を行い、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	3か月ごとにパターンの見直しを行い、個別の把握に努めている。夜間帯もトイレ誘導を行い、紙パンツや尿取りパッドは失敗した時の為であり、基本的にはトイレで排泄してもらうようにしている。トイレの訴えが出来ない方には職員が周りの方にどこに行くか気づかれないように、トイレに誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取量を把握し、少ない場合は摂取を促し、適度な運動や排泄時の腹部マッサージ等を行うことで便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に3回以上実施し本人のタイミングに合わせて柔軟に対応している。無理強いすることのないよう、声かけのタイミングや誘導などに工夫をこらし、入浴を楽しめるよう支援している。また、ケアハウスと連携をとり大浴場での入浴も実施している。	入浴日は曜日問わず毎日あり、ひとり週3日は入浴してもらうようにしている。また、月に一度、同じ建物内のケアハウスの大浴場で入浴し、温泉気分を楽しんでもらっている。入浴を嫌がる方には対応している職員を替えたり、時間の変更、それでもダメな場合は次の日に変えるなど強制はせずに本人に合わせている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や体調などに応じて休息をしていただいている。また、日中の活動を高めることで夜間の安眠が得られるよう支援している。		
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報提供書や薬の説明書をもとに薬の目的や副作用、用法や用量を理解し症状の変化を把握するよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族からの情報をもとに日々の張り合いや喜びが持てるよう、家事支援や炊事、裁縫や華道、散歩などの役割や楽しみごとを持てるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中や一人ひとりの希望に沿って戸外に出かけられるよう努めている。図書館や外食など普段行けないような場所へも出かけられるよう支援している。	屋上や法人内の広い敷地内を散歩している。その際法人本部事務所に寄って、お菓子やお茶をもらったりする。同じ建物内のケアハウスの売店で買い物をしたり、レストランで喫茶を楽しむ日がある。以前生活されていた場所をドライブのコースに取り入れ近所の話で盛り上がっている。家族の会主催で年一回バスハイクの企画をしてきて、他の家族とも親交を深めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物に出かけた際に預り金の中から希望に応じて支払いができるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族への電話を希望されることは少ないが、誕生日や母の日など遠方の家族や知人から荷物が届いた際に、電話をかけ話をしたり、家族や兄弟、知人に年賀状や暑中見舞いなど手紙のやり取りができるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は大きな窓があり明るく開放的で見晴らしも良く、室内には華道クラブで活けた花や散歩から持ち帰った花を飾り季節感を感じられるようにしている。和室では利用者がのんびりと過ごし、外の景色を楽しみながら談話する居心地の良い空間となっている。	床には絨毯を敷き、騒音を防ぎ、音に敏感になられている方が安心して生活できる空間をつくっている。夜間は足音も響かず廊下もやわらかいので歩くのが楽である。季節感のある飾り物をしたり、畳の間があり、ゆったりくつろげる。耳が聞こえづらくなっている方もいるので、テレビは字幕が出るようにしている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファーや畳の間、玄関のエントランスを活用し一人でのんびり過ごしたり、気の合う方やご家族と談話したり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れた家具や仏壇、家族の写真など持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自宅で使い慣れた家具や仏壇など、なるべく思い入れのある物を持ってきてもらい、落ち着ける環境で過ごしてもらえるようにしている。レクリエーションで書いた書道や絵を飾り、本人の個性を出している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札、トイレの表示、風呂場の表示など場所の確認ができるようにしており、廊下には歩行の妨げになる物は置かず安全に過ごせるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない